

生活指導だより

平成26年1月10日

練馬区立大泉北中学校

新年明けましておめでとうございます



平成26年がスタートしました。今年は、冬季オリンピック・パラリンピック、サッカーワールドカップなど世界的なイベントもあり、国際大会で日本選手の活躍により、日本という国を意識する機会が多くなると思います。出場する選手の皆さんも最高のパフォーマンスで臨めるように、取り組んでいると思います。このことから分かるように、目標を立てることができれば、その実現に向かって、様々な努力をすることができます。難しいのは、努力し続けるということです。自分の気持ちを持続させることはもちろんですが、あなたが目標実現に集中できるように、あなたの周りの人々はサポートしてくれています。その期待に応えるため、感謝の気持ちを持ち、がんばって行きましょう。

そして、素晴らしい1年となるようにしてください。

さて、大きな節目は、自分を変えよう、目標を設定しようとする時に適しています。1年生は2年生になるために、2年生は最高学年になるために、3年生は希望に満ちた進路を実現するために、この時を大切にしてください。



今後に生かすこと～学校評価より～

○ あいさつについて

本校でのあいさつへの取り組みは、生徒、保護者の皆様、地域の皆様のどなたも関心が高い項目でした。多くの生徒が「今以上にしっかりとあいさつができるようになろう」と考えています。しかし、中には声を出すのが苦手な人もいます。そこで、気持ちが伝わるあいさつとは何か条件を考えてみました。

条件1 あいさつしたことが相手に伝わること

その要素を満たすには、何らかの動作があること、相手の視線を捉えていること、声が聞こえることでしょうか。

条件2 返礼が確認できること

どちらからともなくあいさつがあり、そのあいさつに応えがあるので、お互いのあいさつが完了するのだらうと思います。

そこで、あいさつを段階的に考えると、第1段階：会釈などの動作ができること。第2段階：一瞬でも相手と視線が合うこと。第3段階：小さくとも声に出せることと考えます。

また、多くの人とすれ違いあいさつをする場合には、年長者からのあいさつは少し簡略して、視線を捉えての会釈でいいと思います。そして、その時に微笑みがあればなお良いと思います。

いろんな人間関係において、あいさつもTPOでの使い分けができると思います。ただ、あいさつが伝わらないのは、人間関係を築く上で良くないことなので、共同で生活する誰もが同じ意識をもち実践できればと思います。

※TPO；T【time】時、P【place】場所、O【occasion】場合

○登下校の安全について

昨年は、近隣校において下校中の児童が、不審者に襲われる事件が発生してしまいました。被害に遭ってしまった児童にはお見舞い申し上げます。また、その場に居合わせた多くの児童の心の傷が癒えるか心配なところもあります。この事件では、居合わせた大人の機転で、犯人もその日のうちに逮捕されました。しかし、児童・生徒のそばにいつも大人が居るわけではありません。

大北中では、危機管理マニュアルを作成しており、職員には緊急時の対応を周知しています。さらに、生徒自身が自分の身を守るためにどうすればいいかなど折を見て話しています。例えば、一人で歩く時は、たまに後ろを振り向くことや、通学路の110番の家を確認しておくことなどです。

また、部活動後の下校時間についても、生徒の安全という観点からご意見をいただいております。検討課題としております。

各学年の取り組み



1年生は、11日（土）に百人一首大会を行います。この大会には、3年生保護者の井上さんのご協力をいただいております。井上さんにはカルタ（百人一首）の専門家として、本格的に札を読んでいただくとともに、短い時間ですが百人一首について教えていただくことになっております。大会後には、1年生保護者の皆様のご協力によりお汁粉をいただきます。

2年生は、17日（金）～20日（月）の3泊4日で武石スキー移動教室に行きます。行事を成功させるために、実行委員

が中心となり計画を進めています。宿舎はベルデ武石を使い、番所ヶ原スキー場での実習となります。このスキー場は、練馬区のスキー教室専用ゲレンデのようになっており、土日でも、一般の方の利用は少なく、生徒がインストラクターの指導の元、思う存分滑ることができるようになっております。天気に恵まれ、怪我をすることなくスキーの楽しさを満喫してきて欲しいと思います。

3年生は、いよいよ受験が始まります。希望の進路を実現することができるようにラストスパートです。ことわざにも「冬来たりなば春遠からじ」とあります。厳しい冬を耐えきれば、暖かい春がやってきます。がんばってください。



○いじめについての読み物○

メールで「死ね」とか「お前ウザイ」とか、ひどい言葉を送りつけてくるいじめがあります。その対応としてこんな事例があります。

(1)メールを消さないで、そのまま先生に見せる。ある小4の女の子は、この方法でうまくいきました。

「4年の時、物を隠されたりされてた。『先生に言ったらどうなるかわかってんの』って脅されてた。次の日、先生に携帯を見せたら、『先生が気付かないでごめんね』って言ってくれて学校の問題にしました。それで私のことをいじめてた人たちが反省してくれてあやまってくれて、いじめはもうなくなりました。

(2)ニュージーランドのメールいじめ対策

ニュージーランドでは、メールいじめがあったことを携帯会社に連絡すると、相手の番号を止めることができるそうです。いじめっ子が使えるようにするには、お金（日本円で3200円くらい）を払わなければなりません。子どもには高い金額です。また、3回以上止められると、刑事告訴の対象になるそうです。日本でもこういう対策がとられるといいですね。

☆学校へのご意見などございましたらお願いします。☆（切り取ってご使用ください。）